

イプフルフェノキン水和剤は ブドウ晩腐病の防除に有効である

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹-ブドウ-病害虫防除
- 2 担当者名 日下部翔平、小松健太郎
- 3 要旨

晩腐病はブドウの重要病害であり、生産現場からは防除効果の高い薬剤が求められている。そこで、イプフルフェノキン水和剤（商品名：ミギワ 20 フロアブル）の防除効果を検証した結果、幼果期の防除に本剤が有効であることが明らかとなった。

- (1) 2022 年及び 2023 年に、「ピオーネ」を対象として幼果期にイプフルフェノキン水和剤を 1 回散布し、収穫期に晩腐病の発生状況を調査した。なお、発病を促すため、散布後にブドウ晩腐病菌を接種した枝を棚線に設置した。
- (2) 2022 年及び 2023 年ともに、対照薬剤であるシモキサニル・ファモキサドン水和剤（商品名：ホライズンドライフロアブル）よりも高い防除価を示した（表 1、2022 年のデータは省略）。

表 1 ブドウ晩腐病に対する防除効果（2023 年）

区	希釈倍数	樹No	調査房数	程度別発病房数※					発病房計	発病房率 (%)	発病度	防除価
				0	1	3	5	7				
イプフルフェノキン 水和剤	2,000倍	1	87	79	6	1	1	0	8	9.2	2.3	
		2	68	63	3	2	0	0	5	7.4	1.9	
		合計	155	142	9	3	1	0	13	8.4	2.1	93.9
シモキサニル・ ファモキサドン水和剤	2,500倍	1	78	30	13	16	14	5	48	61.5	30.4	
		2	71	35	9	14	10	3	36	50.7	24.5	
		合計	149	65	22	30	24	8	84	56.4	27.6	20.3
無散布区		1	65	23	10	14	16	2	42	64.6	32.1	
		2	76	22	12	17	21	4	54	71.1	36.8	
		合計	141	45	22	31	37	6	96	68.1	34.7	

※指数 0：病斑なし 1：1 房あたりの発病果粒率 5%以下 3：6~20% 5：21~50% 7：51%以上
散布日は 6 月 22 日、調査日は 9 月 6 日。防除価は発病度から算出した。
甚発生条件での試験となった。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3~7 年度
- (2) 研究課題名 重要な病害虫に対する防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 日下部翔平, 「福島県におけるブドウ黒とう病及びブドウ晩腐病の防除対策強化の検討」, 北日本病害虫研究会報 第 74 号, p138, 2023.